

## 自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホーム紫苑経営理念 「愛ある施設 心ある介護」をグループホーム紫苑施設憲章としてまとめている。	○  施設の理念を見直し、住み慣れた地域で安心した暮らしができるよう、入居者と地域の関係を念頭にいれ、柔軟性のある事業所作り。
2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝朝礼時に施設憲章を読み上げており、事業の目的や運営方針を職員全員が理解を深めるよう取り組んでいる。	○  会議やミーティング、支援方法検討時日々の流れの中、理念に必ず基づいた取組みを考えている。
3	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ペチュニア通信（広報誌）、行事予定表の配布。入所時契約内容、事業内容紹介。家族や地域住民への積極的挨拶。	○  地域行事や外出、散歩などにより日常的に地域の人達と交流を持ち、紫苑への理解を深める。広報誌制作継続。
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣近所や地域の方と出合った際は必ず笑顔で挨拶を交わし、親しみを持って頂くよう心掛けている。	○  見守り隊や地域行事（老人会、自治会等）にできるだけ参加し、交流を持つ。挨拶の継続、いつでも見学をして頂く。
5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	保育園、老人会、自治会等の行事や子供見守り隊に積極的に参加。地域の行事や祭りにも参加。散歩時等地域の人との挨拶や交流に努める。	○  地域との継続的な関わりにより、地域により密着した施設となるよう努めていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	朝礼集にて”地域住民の役に立てるように”と意識づくりを行う。	○	今後も意識づくりから自己啓発をしていきたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自らの取組みを省みる機会、第三者の視点と指摘を貴重なご意見と捉え、時代の流れに沿える事業所、サービスの向上に前向きである事業所として活用している。	○	自己評価、外部評価を通じ現在の取組みの良い所は守りつつ、改善、改良にも前向き柔軟性を持ち取組む。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回、入居者や職員も出席し率直な意見や感想を自由に話し合えるようにしている。又、運営者や参加者には議事録として今後の運営の参考にしている。	○	会議への出席者を増やせるよう広報をより積極的にし、会議での意見がより活発化し、サービスの質の改善に繋げられるようにする。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	希望があればいつでも行き来可能である。市の動向も把握しつつ分からない事は質問し、市の回答に沿い事業所の運営を行っている。	○	市の方針に沿いながらサービスの質が向上するように取り組む。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	資料は収集しいつでも閲覧可能にしている。施設内外の研修の機会を活用し知識の習得に努めている。	○	新しい知識の収集に努め、正確な知識を全員で習得する。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止関連マニュアルを作成し、いつでも閲覧可能。施設内外の研修機会を通じ知識や意識の再確認している。	○	学習機会を得ることにより職員の意識を高める。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
<b>4. 理念を実践するための体制</b>				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設長、管理者等が入退居時契約書を用い、納得のいく説明を行っている。又、随時相談がある際には不安解消を図っている。	○	丁寧な対応、その場に立った考え方に努め、常日頃より不安や疑問を解決しやすい関係づくりを心掛ける。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月2回の運営推進会議への出席 苦情相談対応書類の活用により日常の中から出た内容も見落とさないようにしている。	○	苦情=サービス向上へのヒントという考え方を忘れず、質向上に向け丁寧に対応する。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	月に1回は面会して頂けるようお話し、利用者の個人ケースやお小遣い帖にサインを頂いている。又、利用者の健康状態等変化のあった時はその都度連絡をとる。行事予定等毎月送付も行う。	○	面会時利用者の様子を口頭でも説明しているが、今後より一層ご家族と共に利用者を支えていけるよう交流を持っていきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時苦情等への対応連絡先紹介。運営推進会議のご案内を実施。 面会時等苦情や相談ができやすいよう会話の機会を持つ。	○	日頃より家族様等が気軽に意見を言える雰囲気づくりに努める。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、職員全体会議、調整会議又は日々の仕事の中で話し合える場を作っている。	○	一人ひとりの気づきや取組みを認め合える職場づくりにより成長していきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	事前に連絡(申し送り)することにより職員に協力を依頼している。	○	お互いに協力できるように流れの把握に努めている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の変化によるサービスや雰囲気の違いが大きく出ないように日頃より統一ケアを実施。利用者に関わる上で他の職員が利用者をフォローできる職員連携を作っている。	○	利用者の心理的フォロー、サービスの質低下回避の為、職員の確保と質向上に努める。移動前に利用者きちんと紹介し何度か訪問を行い、利用者の方との接点を持つ。
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修に出席できる機会があり、研修報告書としてあげ、全職員が目を通し学びを共有している。	○	研修内容を共有した上で、仕事に活用できるようミーティングや会議の機会を持つ。
20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月1回(第3火曜日)に区内のグループホーム会議に出席、又、年に2回市内全体の会議に出席、情報交換や学びの機会を持つ。	○	他グループホームの取組みや運営方法を参考に紫苑の成長を目指す。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休日や有休の確保。 相談事はすぐに話し合える職場づくり。	○	働きやすい環境づくりの為今後も相談し、改善に努める。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個性や知識など認め合い、活用した配置に努めている。	○	向上心維持の為働きやすくストレスのあまりない職場を作る。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談事はないか、心に秘めていることは何か、聞く姿勢を常に持つようにしている。	○  いつでも話しやすい雰囲気づくりに努める。
24	○初期に築く家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	”理解したい”姿勢を表に出し、こちらから関わっていくよう努めている。 見学の機会活用。	○  信頼して頂けるよう、話がしやすい雰囲気、傾聴の姿勢をとる。
25	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その方に合ったサービスが利用できるよう自施設のサービスにとどまらず、提案できるように心掛けている。	○  制度や他事業の内容把握、情報収集する。
26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご家族の希望に配慮しながら利用者の同意を得てからの支援を基本とする。 利用者の尊厳を大切に無理なく孤立なく生活歴や性格をご家族と話し合い、大きくズレないようにしている。	○  馴染める生活環境を作るよう職員の関わり方の工夫や私物の活用、ご家族との連携を今後も工夫、検討する。 実際に数名の方が体験入居されている。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として尊敬の念を持って接している。 家族的な雰囲気の中、目線を合せ、その方の心の中に気付けるよう心がけている。 出来ることをして頂き、協働しながら生活を送っている。	○  遠慮されている面もあり、第2の家族という身近で気軽な存在になる関係づくりの工夫が必要。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	月に1回は面会して頂き、利用者の状況を把握して頂いたり、変化があった際は相談し決定するようにしている。行事への参加も呼びかけている。	○	より綿密に連絡を取りあえる関係構築。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	時に両者の代弁者となり両者間の誤解や溝が生じないように努めている。	○	安心した生活を両者が送れるよう関わっていく。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	環境が与える影響に配慮するよう考えている。”ムリやムダ”は使わず、叶えられるよう検討する。	○	本人の思いを大切に支援していく。
31	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	孤立しがちな人には積極的に関わり、孤立を防ぎ支えあっている方々は負担になっていないか配慮するように努める。	○	利用者間同士の交流を見守り、トラブルが生じた際には的確に対応する。
32	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	いつでも相談や支援ができるようお話をしている。	○	必要に応じ関わり、不安や悩みを解決できる技量を身につける。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日関わりや思いを汲み取る雰囲気を持ちようにしている。	○	より一層ご本人の本音や希望等を聞ける関係づくりに努める。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人ケースにその方の生活歴等をファイルし職員は必要に応じ目を通し把握可能。	○	より充実した情報を収集し、サービスの質向上に繋げていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	好き嫌いや好かれる事など関わりの中から見つけ、負担にならないよう1日を安心感を持って過ごして頂けるよう努めている。	○	観察力を養い、介護支援の量や内容を的確にしていきたい。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月に1回はサービス担当者会議を開催。ご家族の意向も日頃より収集するように努め、随時支援内容を話し合い柔軟に対応している。	○	ご本人に関わる人々の意見やアイデアを大切に、ご本人にとって最善となるように介護計画を立てることを目指す。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	その方の生活に即した計画を立てれるよう随時関係者と話し合い、新たな計画を立てている。	○	より中味の濃いその方らしい計画を立てれるよう、関係者との話し合いの機会を充実させる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日夜、状況をケースに記入したり、介護支援経過を作成。職員や家族が閲覧し意見や感想、提案が自由にできるようにしている。	○	その方の変化に気が付けるよう関係者全員の関わり方や気づき等を日頃より話し合えるようにしている。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	要望がある度に検討し、可能な限り応じ対応できるよう努める。	○	”できない”ではなく”できるよう努める”努力を継続。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の方の面会等、望まれることや安心できる人、物との関わりが出来る限り持って頂けるよう配慮している。	○	資源の活用により質の高い豊かな心になれる支援を考えていきたい。
41	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	希望があれば通所介護サービスを利用できる。	○	他のサービスの利用について可能な限り、希望があれば検討していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に出席して頂く等、関わりを持つことにより、必要時協働できる体制あり。	○	随時関わり協働していきたい。



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週(木)Drによる診察あり。又、法人内Drにも受診可能。診察日は家族様、本人様にも通知。家族様は自由に同席可能。入所前のかかりつけ医を主治医とすることも可能。	○	かかりつけ医の専門外は外部のHPに随時受診、家族とも連絡を取っている。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要に応じ認知症専門HP受診、通院を行っている。	○	主治医、家族と相談しながら対応を検討している。
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	法人内の看護職と連携、協力体制をとっている。	○	正確な情報のやりとりにより医療面の安全を図る。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	定期的に面会。その際、看護師やHP関係者に状態を尋ねている。家族の相談に随時応じいつでも戻れる体制をとる。	○	グループホームの生活に戻れることを前提に話をしている。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族や本人の希望に可能な限り添えるよう職員、Drも交え、方針を検討対応できるような体制あり。マニュアル作り、又、研修により学んでいる。	○	マニュアルの内容、施設内外研修の内容を職員一人ひとりがしっかり共有していきたい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	マニュアルを作り経過を細かく把握できるようにしている。Dr、看護師、家族と連絡	○	チームでの支援ができるよう、日頃より職員間や関係者間の関係を築いておく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	”本人にとって最善”を念頭に、本人の意向や家族の思い、関係者との連絡をスムーズに調整している。	○	希望と現実問題の差を埋められるフォローに気を付ける。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>				
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>				
50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報やプライバシーに関しては常に念頭に置き、不快感を感じさせない仕事をしている。マニュアルを作り又、施設内外研修を通じ知識を更新、学習機会を持つ。	○	情報に関しては、漏れのないよう対策を一人ひとり心がけ実践していく。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個人の尊厳を大切に言葉のキャッチボールを心がけ、本人の思いを伝え、口に出して頂けるよう時間や間を大切にしている。	○	今後も気兼ねせず、本人の思いや考え望みを口に出せる環境づくりに努める。
52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	表情や行動、言葉の理解に努め、本人と向き合い、可能な限り応じたり、代替になるもの考えるようにし、希望に沿える様に努力している。	○	集団生活の中でも個人の時間を大切にしたり、希望を口に出せる生活を送って頂く。
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>				
53	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	洋服の選択や、女性・男性の区別、好みの髪型にできる等配慮。	○	好みに応じられるよう努めていく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	○	<p>変化ある状況に対応できるよう、常に観察を怠らず食事を楽しんで頂けるよう努める。</p>
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	○	<p>家庭的な環境の一環として、今後も柔軟に取り入れていく。</p>
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	○	<p>個人の性格や力に応じ、支援方法を常に考えながら、快適な排泄支援に努める。</p>
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	○	<p>個人の希望やペースに寄り添える支援を心がける。</p>
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	○	<p>利用者を中心とした日常生活であることを念頭に、ゆとりを持ち、柔軟に対応していく。</p>
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	○	<p>今後も個人個人に目を向け関わっていく。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設管理のお小遣いとは別に、本人管理のお小遣いを持たれている方もおり、外出時など自由に使われている。	○	不適切な使用や、使い過ぎがないように、必要時見守りをしていく。
61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員体制にもよるが、天気の良い日など散歩や外出のお誘いをしている。	○	外の空気を吸える事を日課として、気分が晴れるよう支援していく。
62	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族との連絡等により希望に沿える努力はしている。	○	より希望に沿えたり、代替により納得して頂けるよう努める。
63	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様の状況等にもよるが、希望に応じたり手紙を書くことを提案したりすることあり。	○	本人の希望には可能な限り応じ、又、代替にて納得して頂けるよう努める。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に来て頂けるよう声かけを行っている。	○	来て頂きやすい雰囲気づくりして、家族との協力を維持していく。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	”身体拘束ゼロ”に同意、賛同している。 マニュアルを作りやむを得ない場合についても指針あり。	○	危険な場面であっても、何故かの原因を探り、拘束しない別の方法を考えていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室の施錠は職員からは行わない。玄関の施錠は家族とも相談した結果、安全確保のため施錠している。	○	見直しは定期的に行っていきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の安全を第一に考え、”もしも”のことを想定した生活づくりもイメージし、危険に陥らないよう努めている。	○	今後も安全な環境、生活づくりに努める。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	家庭的な環境、その方の生活歴を大切にしながら、置き場所等を工夫し、危険回避できるよう配慮している。	○	ご本人の習慣を大切に、安全も考えた対策を今後とも考える。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	研修や自己学習、職員間連携などを通じ、日常生活に気を配っている。	○	気を抜くことなく、その方に合った支援で危険を防止していく。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	施設内外研修やマニュアル作成を通じ、全職員が知り、学べるようにしている。	○	知識や技術の確認を研修等を通じ行いながら、職員同士高めあっていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年4回消防訓練を行い、少しでも慌てず対処出来るよう取り組む。 日頃より地域の方と関わりを持ち、協力し合えるよう努めている。	○	訓練内容や日頃の人や物への関わりを工夫、見直すことが必要。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	その方らしい生活を送って頂く上で、起こり得るリスクを説明した上で、納得、了承を得、安善に配慮しながら生活を送って頂いている。	○	家族とのより充実した関係を目指し、意志の疎通を図っていききたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタル測定や、日常の観察により変化に気付くよう努めている。又、職員間の連絡、相談、情報交換も蜜に取るよう心掛けている。	○	少しの変化にも原因を考え、対処していくようにする。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ケース、カルテ、服薬管理マニュアルに一人ひとりが服用している薬の紹介を挟み、いつでも見直せるようにしている。	○	Drと相談しながら、利用者にとって最も扱いやすい工夫と効果に配慮していく。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘がちな方には、ヨーグルトや牛乳、水分摂取量など排便を促す工夫をご本人様の納得の上で行っている。	○	薬に頼るばかりでなく、自然な食べ物で便秘改善につながる工夫、知識を身につけていく。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	歯磨きをして頂いたり、うがいやお茶を多く飲用して頂いたり働きかけを行っている。	○	こまめに摂って頂いたり、味や形態を工夫することにより、増加に繋げていきたい。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取チェック表は全員の方、水分摂取チェック表は少ない方に対象あり、少ない方には摂って頂けるよう工夫している。	○	こまめに摂って頂いたり、味や形態を工夫することにより増加につなげていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染対策マニュアル等あり、清潔、不潔や流行している病気や予防方法について情報収集し、対策・予防に努める。	○	常日頃より知識習得に努め、予防に力を注いでいきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	塩素系漂白剤等による定期消毒や手洗い、汚れの放置注意など、衛生、保存方法、清潔に配慮している。	○	常に安全、安心な食べ物を提供できるよう管理方法を統一し、気を抜かないようにしていく。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	家庭的な玄関づくりや木や花があることにより、地域に溶け込み、閉鎖的なイメージを失くすよう努めている。	○	地域に溶け込める雰囲気づくりに努める。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁に絵や作品を飾ったり、花を生けたり、自然光や明るくする工夫をすることにより、居心地の良い空間を作っている。	○	家族的で親しみの持てる雰囲気を、今後も工夫し作っている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室やソファなど利用者が自由に使用、居室以外で過ごせる場を作っている。	○	生活空間を作る中、近づき易い雰囲気を大切に、空間を活用して頂くようにする。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	その方の生活歴を大切に、私物や写真を置き、自 室という認識を持てる工夫をして頂いている。	○	施設での生活であるが、私物など大切な物に囲ま れ、安心できる環境の中生活して頂けるようにす る。
84	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	各居室に換気扇、冷暖房設置あり。又、窓を開い ての空気の入れ替えや、天候、気候、季節による 温度差に配慮している。	○	高齢者の立場に立った空調管理を行うよう気を付 ける。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	バリアフリー、手すりの設置等工夫あり。	○	A Dレベルに合わせ、福祉用具や建物の環境を工 夫し、有効的に活用する。
86	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	常に声かけし、理解、納得、了承を得てから次の 行動に移るようにしている。ご本人様の納得が得 られないことはむむり強いしない。	○	常にその方の気持ちを尊重し、理解を伴った日常 生活を組み立てて頂けるよう配慮する。
87	○建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	家事参加(洗濯物干し、取り入れ、ゴミ捨て)等 や子供見守り隊、散歩時に活用している。	○	安全に配慮しながら、活用機会を維持していく。

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・家庭的な環境の下、明るい支援を中心に”何事も利用者と一緒に”を心がけ、生活を組み立てる努力をしている。
- ・毎日”笑い”を大切に、利用者との関わる時間を多く持つように努め、入居者も職員も楽しく過ごせるようにしている。
- ・地元のお米や手作りのおかずにより、安全で安心な食べ物を提供している。